

27年7月議会

公共施設の在り方について

質問

次に、公共施設のあり方について質問いたします。

施設白書を作成し、吹田市の公共施設の現況が見える化し、特に現状維持をすれば、年間およそ30億円の費用がかかるということをはっきりとされたことは、今後の施設のあり方を検討する上で非常に重要なことでした。その白書をもとに最適化計画を作成されているとのことですが、方針編の後の実施編の完成がおくれているようです。いつ完成するのでしょうか、お聞かせください。

春藤尚久行政経営部長

吹田市公共施設最適化計画（実施編）につきましては、これまでの取り組みを踏まえ、全庁的な議論のもと、一般建築物の最適化に向けた取り組み方策や用途分類別の施設の方向性の内容を盛り込むなど作業を進め、現在、素案の取りまとめの最終段階となっております。

今後、同計画（実施編）素案をお示しできる段階になりましたら、市民説明会やパブリックコメントを実施し、市民の皆様から御意見をいただいた上で、今年度末をめどに完成する予定でございます。

以上でございます。

質問

市長は施政方針の中で複合化や集約化についても言及されています。大いに賛同するところでございます。

その中で、立地適正化計画の検討についても触れられておられます。その目的と最適化計画との役割分担についてお聞かせください。

野上博史都市整備部長

公共施設最適化計画につきましては、公共施設の最適な整備、再配置、維持保全などを行い、最適化を推進していく際の基本方針と取り組み方策をまとめたものでございます。

一方、立地適正化計画につきましては、居住機能や医療、福祉などの都市機能の立地を計画的に誘導することで、持続可能な都市を目指すものであり、都市計画マスタープランの一部として位置づけられるものでございます。

本市におきましては、庁内関係部局との連携を図りながら、立地適正化計画の作成について研究、検討を行ってまいります。

以上でございます。

質問

さて、公共施設の役割についてでございますが、一つ、大事な視点を入れていただきたく存じます。それは、緩さでございます。

公共施設のイメージは非常にかたく、そこに用事がなければ、なかなか立ち入らない場です。各施設の利用率等を見ていると、せっかく多額の税金をかけ、建設、維持管理する以上、より市民に利用いただける施設にしていく必要がございます。

その中で、公共施設に今後求められるべき性質として人と人をつなぐ場ということを提案いたします。この点については、公園にパークカフェを設置するという市長の政策から鑑みても、同じ思いをお持ちではないかと考えます。

そのためには、目的なく足を運ぶことができる緩い空間をデザインすることが必要です。過去にはそれが公園だったり、商店街だったり、誰かのうちの縁側であったりと、自然にあった緩い空間が、今は経済的合理性・効率性のもと、なくなりつつあります。

人と人とのつながりをつくることこそが、社会が抱える問題を解決する大きな力となることが明らかとなった今、行政こそがそういった緩い場を演出する必要があるのではないのでしょうか。

そういった観点から公共施設の役割やあり方を再検討するべきと考えますが、そのモデルとなるのが、実はこの吹田市でございます。吹田市が誇る施設、子育て青少年拠点夢つながり未来館です。子育て世代にも非常に好評な施設ですが、この施設の3階で青少年のさまざまな交流が生まれていると仄聞しております。

設計当時、この場に込められた思い、そして、実際に果たしている役割についてお聞かせください。

川下貴弘地域教育部長

子育て青少年拠点夢つながり未来館に込められた思いでございますが、高度経済成長以降、物質的な豊かさ引きかえに、昔の子供たちには当たり前であった、自然環境、自由に遊べる空間、それと自由に遊べる時間、そして遊び仲間、こういったものが次々と失われてきたと言われていました。

このような環境を背景に、子供たちにとっては、学校でもなく、家庭でもない、誰に強制されることもないほっとできる空間である居場所が必要であると考え、そういう施設を目指してまいりました。

夢つながり未来館には、地域教育部が所管をしております、青少年活動サポートプラザと山田駅前図書館、そして、こども部が所管いたします、のびのび子育てプラザの三つの機能がございます。市長部局と教育委員会との垣根を越えて、子供が生まれてから、子育て、子育てを経て青少年となって自立していくまでをトータルで支援していこうという施設でございます。三つの施設の連携が相乗効果を生み出すことを狙いとしております。

平成 26 年度 (2014 年度) の施設全体の利用者数は、約 39 万人でございまして、開館以来、最高の利用者数となりました。

青少年活動サポートプラザの 3 階交流ロビーでは、さまざまな年代の青少年が集まる居場所となっており、ふらっと交流ロビーを訪れた子が、学校も学年も違う子と親しくなり、趣味の話や夢を語り合い、お互いに影響し合い、成長していく、そんな自由な空間として交流ロビーが存在をしています。

また、青少年の交流を支援するだけでなく、青少年相談事業を実施し、臨床心理士や社会福祉士、キャリアカウンセラーなどの資格を持つ専門の相談員が、ひきこもりやニートなど、課題を抱えた青少年の自立を支援をしています。この相談事業を利用する青少年も社会へつながるきっかけとして、3 階交流ロビーに立ち寄っています。

夢つながり未来館は、開館して 5 年目の新しい施設で、まだまだ伸びしろのある施設でございまして。今後も、青少年がみずからさまざまなことに挑戦し、自信を持って社会に羽ばたいていけるよう、全力で支援してまいります。

以上でございます。

質問

ありがとうございます。非常に素晴らしい施設で、これからのあるべき公共施設のモデル、それがもう既に吹田にあるということでございます。

公共施設のあり方を一歩進めるべき今、この考えを今後、複合化や集約化の際に積極的に取り入れるべきだと考えますが、市長の考えをお聞かせください。

春藤尚久行政経営部長

これからのあるべき公共施設の姿について、市長にとのことでございますが、担当部のほうから先に御答弁させていただきます。

公共施設の最適化を進めるに当たりましては、複合化や集約化を図るとともに、市民の利便性や施設の効率性を高めていく必要があると考えております。

複合化や集約化に当たりましては、施設利用者間の交流を促進し、相乗効果の発揮できる施設となるよう、公共サービスの提供の必要性や利用状況などの供給の視点、安全性やバリアフリー対応などの品質の視点、そして、維持管理費や事業運営費などの財務の視点から、多角的に検討してまいります。

以上でございます。

後藤圭二市長

本市の多くの公共施設は人口急増期に集中して建設されました。そのため、50 年近くを経過しているものも多く、施設の長寿命化や更新などに取り組まなければならない時期に来ています。

人口の減少、少子高齢化が進む中で、将来を見据え、複合化や集約化等により、全体規模の見直しを図りながら、多機能で利便性の高い施設となるように最適化を取り組んでまいります。

その際には、御提案のございました緩さ、これは公共施設ならではの、いわば非生産的ではございますが、大切な公共財産として、これまで空間デザインとして実現をしてきたものと感じております。

そのような考え方、機能を織り込むということを大切にして、リニューアルに取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

意見

ありがとうございます。事業目的のみに縛られず、本当に市民のためになるような施設的设计等をしていただきますようよろしくお願いいたします。

有効活用についてはちょっと時間の関係上、飛ばさせていただきます。